自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。

○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。

○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム **ヤックス都の杜**
（ユニット名）	1F　ユニット
所在地 （県・市町村名）	千葉県千葉市中央区都町 1283
記入者名 （管理者）	大戸　悠暉
記入日	平成　21　年　　2　月　　14　日

（様式1）　　自己評価票　　参考様式

項目番号 自己評価	項目番号 外部評価	項目 タイトル	項目 小項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営						
1．理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念があり、各ユニット・職員休憩室の見やすいところに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時や全体会議、日々の申し送り時等に、度々、理念の再認識、意識の共有化を図り、常に実践に向けて取り組んでいる。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所だより、地域の行事やホームの行事等を通じて交流を持つよう努め、都度、理解してもらえるよう働き掛けている。		
2．地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開設当初から散歩での挨拶や会話、行事参加等を通じて積極的に関係作りに努めてきた。気軽に声を掛けてもらえるようになっている。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	早くから自治会に加入している。地域の方々の配慮で、お祭りでは御神輿の庭内への乗り入れがある。また、ホームの行事に参加してもらうなど、交流を持つ機会を大切にしている。		
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材不足を解消できないまま、利用者の重度化や体調不良が続く中で、手一杯となり、地域貢献への積極的な取り組みが行えなかった。	○	自分たちの事業所が持つ力や、地域に対して自分たちができる事を、職員間で話し合い、具体的に取り組みたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に向けて努力をしている。	○	今年度は、事業所内の事情により、具体的な成果が得られなかったが、次年度に向けて、話し合ったり、企画を考えたりしている。地域との関わりを拡げていきたい。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、多岐に亘って報告や意見交換を充分に行っている。会議で出た意見を職員会議等で話し合い、サービス向上に役立てている。		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の運営推進会議への参加はないが、随時、報告や相談等、連絡を取るようにしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な人には、活用できるよう支援している。	○	制度について充分に学べる機会を増やし、積極的支援に繋げたい。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	順次研修等へ参加し、職員間で報告や話し合いを行い職員全体の意識向上を図っている。常に注意を払い、都度話し合いながら事業所全体で防止に努めている。	○	年間で、研修を受けられる人数や機会は限られてしまうが、今後も順次参加できるよう積極的に研修への参加を行っていく。
4．理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、事前に充分な説明を行い、不安や疑問点については、何でもお話し頂くよう促し、理解・納得を得た上で締結している。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	H20．12月で市からの介護相談員の受入れがなくなり、外部者へ意見等を表出できる機会が減った為、家族への協力を求めている。	○	介護相談員の受入れの再開や運営推進会議の開催方法を再検討するなどし、外部者と接する機会を増やしたい。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、各利用者の近況報告を家族に送付すると共に、面会時や、他必要時には随時電話連絡するなど、こまめに報告を行っている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けており、代表2名に苦情相談窓口になってもらっている。また、ホーム、行政の苦情相談窓口も、ホーム内の見やすい場所に掲示している。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社とのパイプ役となる職員が常勤として勤務しており、会議や申し送りの他、常時職員の意見や提案を聞いており、反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化等に応じて、必要時は随時勤務調整を図り、柔軟に対応している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着化を図るため、待遇面の見直しや働きやすい環境づくりに努力をしている。	○	
5．人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、研修を受ける機会の確保や働きながらの資格取得等に理解はあり、協力的である。	○	職員が、それぞれの段階に応じて、必要な研修が受けられるよう研修参加の機会を増やしたい。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会で世話人をしたり、積極的にネットワーク作りを心掛けている。交流会等にも参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上に役立てている。	○	職員全体が、多方面にネットワークが拡げられるよう他事業所の職員と交流できる機会を積極的に増やしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室には、TVや冷蔵庫を用意し、くつろげる環境を作っている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、個々の努力や勤務状況を把握し、評価を待遇面に反映させられるよう努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず事前面接を行い、ご本人とお話しする機会を設けている。不安や思いを受けとめる努力をしている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば、何度でも面接し話せる機会を持っている。電話等でも随時対応し、不安なく利用できるよう努めている。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の状況等を見極め、他のサービス利用も含めて、ご本人・ご家族にとって最善の支援の形を相談させてもらっている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人にも事前に来所して頂き、職員や他の利用者とリビングで一緒に過ごしてもらうなど、場の雰囲気に馴染む時間を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お世話をするという意識ではなく、できる事は一緒に行い、共に暮らす仲間として、共感しあい、お互いに与え合い、支え合うという関係作りをしている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と思いをひとつにして、本人をよりよく支援していけるよう、何でも相談し合える関係作りを心掛けている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人との関係を理解し、より良い関係が保てるよう支援し、場合によっては、時間を掛けながら関係の修復をさりげなく支援している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や同僚、馴染みの関係にあった方が気軽に面会に来て頂けるように促している。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わり合いを大切に考えている。職員は支え合える環境づくりを心掛けている。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者に、職員が各々面会に行ったり、また、ご家族がホームを訪れてくれたりと、継続的な関わりが持たれ、大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
１．一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや、意向の把握に努め、本人の過去の生活歴等を踏まえて、その人らしい暮らしや尊厳を支える支援をしている。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴等の聴き取りを行うが、入居後も、更に本人や家族から過去の生活歴、環境等の聴き取りを行い理解と把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の現状は、勤務者が総合的な把握をし、朝夕の申し送り、日誌、個人記録、連絡ﾉｰﾄ等で、職員全員が把握できるよう努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族に意向の確認や相談をすると共に、申し送りや会議等で個々の課題についての話し合いを行い、それぞれの意見やアイデアを反映させながら介護計画を作成している。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行う他、介護度の変更や利用者の状態に変化があった場合などは、随時、ご家族、職員、必要であれば、Dr、看護師等にも相談、意見を貰いながら、現状に即して新たに計画を作成する。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果については、個別記録や日誌に記入。気づきや工夫等は、更に連絡ﾉｰﾄや申し送りで情報の共有に努め、介護計画の見直しにも活用している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要な介護用品の購入等については、本人や家族の要望に応じ、柔軟に対応し支援している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や消防等には、折りに触れ働き掛けを行っており、理解を得ている。近隣のお店等にも理解を得ており、協力的、友好的である。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて訪問看護事業所との連携を図ったり、地域のケアマネ、施設、病院と連携を図り、他のサービスを円滑に利用できるよう支援している。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、折りに触れ情報交換を行っている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医が、協力医療機関以外であっても、必要に応じて、情報提供や家族に代わっての付き添い等、継続して医療が受けられるよう支援している。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師を持つ協力医療機関を確保しており、診断や治療が受けられる。また、気軽に相談に応じてもらえる体制がある。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一度、非常勤の看護師を配置しており、利用者の日常的な健康管理や指導をしてもらっている。必要時には随時相談できる体制にある。	○	医療面での勉強会を定期的に実施し、職員の知識の向上、ケアの質の向上に繋げたい。
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に早期退院の希望を話し、必要な情報提供、情報交換に努めている。また、本人や家族が安心できるよう3ヶ月間の居室の確保をしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の段階から、ご家族とはお話しをしている。入居後は、個々のケースの状況・状態により、都度早めにご家族と細かい話し合いを持ち、意向の確認を行い、医療を含め、チームで方針を共有している。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族、医師、看護師、職員で、何度も繰り返し話し合いを重ね、事業所としてできること・できない事を見極めた上で、ご本人や家族の思いにできる限り沿えるようチームとして支援にあたっている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者には、事前に充分な情報提供、情報交換を行い、転居先でできるだけ本人の混乱や不安がないよう配慮をお願いしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1．その人らしい暮らしの支援						
（1）一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の自尊心や羞恥心、プライバシーに配慮した声掛けや対応をしている。記録は一定の場所に管理し、持ち出しは厳禁とし、個人情報の取り扱いについても慎重に行っている。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の中で、自己決定や希望の表出を促すような場面作りを、個々の力に合わせて行っている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重し、個々の気持ちや体調に合わせた支援を心掛けている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	それぞれ個性に合った服装をされ、お化粧やマニキュア、毛染め等のおしゃれの支援を行っている。家族支援で定期的に美容院へ行く利用者もいる。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる力に合わせ、食事の下準備や盛り付け、食器洗い等を職員と一緒に行っている。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのおやつや飲み物については、他の利用者についても配慮をしながら、本人が楽しむことができるような支援の方法を工夫し、提供している。		
56		気持よい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力や排泄パターンに合わせ、さりげなくトイレへの誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間帯は、ある程度決まっているが、その中でもくつろいで気持ちよく入浴できるよう、誘い掛けや雰囲気作り、個々のペースに気を配っている。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の長年の生活習慣や日々の体調等に合わせ、安眠や休息を促す支援をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれのできる事、好きな事を、その日の体調や気分に応じて行っている。	○	気晴らしの支援や外出支援の機会を増やしたい。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食に出掛けた際には、レジでの清算は利用者に行ってもらうようにしている。	○	買い物へ出る機会を増やしたい。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、できるだけ外気に触れる支援をしている。	○	重度化に伴い、日常的に戸外へ出掛けられる機会が減っている。人員的な問題も含め環境を整えたい。
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や買い物、プラネタリウムなど、個々の興味や好みに合わせ、個別、もしくは少人数での外出を支援している。人員が不足する中では、家族へ外出支援を呼び掛けたりして、なるべく戸外へ出掛けられるように支援している。	○	重度化した利用者の外出支援について検討して行きたい。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、いつでも可能である。年賀状は、ご家族に宛てて、可能な限りご本人に書いてもらっている。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は、明るくにこやかな態度で接し、気軽に訪問できるような雰囲気作りを心掛けている。		
（4）安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、正しく理解・認識をしてもらうよう順次研修を受け、他職員へは研修の報告を行っている。日常的に職員は、それぞれが常に意識し、注意を払い合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	研修に参加できる人数や機会は限られるが、順次、全員が研修を受けられるようにしたい。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中においての玄関には、施錠はしておらず、各ユニット間の行き来、庭への出入りは自由である。門扉についてのみ、ご家族の要望もあり施錠している。	○	周辺の交通量や設備、人員の問題などから、現状では門扉の施錠についてはやむを得ないと考えるが、「当たり前」ではないという事を職員全体で意識していけるよう、折りに触れ話している。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、日勤者のリーダーが全体を把握。他の職員も利用者の位置や行動の把握に努め、連携を図りながら、見守りを行っている。夜間については、夜勤者はリビングに待機し、全体を把握しながら見守りを行っている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や明らかに危険な物品については、目につかないところに保管している。注意が必要な物に関しては、個々の状態に応じ、注意して見守り、観察や工夫を重ねながら、危険のない対応を検討している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	概ね、職員は知識を学んでおり、個々のリスクについても、日常的に話し合いをしている。個々の状態を細かく把握し、それぞれに応じた事故防止に努めている。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	非常勤の看護師により、急変時の対応や応急手当については勉強会を行っている。	○	新任職員も含め、職員全員が咄嗟の事態に対応できるよう勉強会の機会を増やしたい。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣への協力依頼はしている。避難訓練は年に2回必ず行っており、緊急時に職員がパニックに陥らないよう避難のマニュアルや通報のマニュアルも各職員に配布すると共に、見やすい場所に掲示している。	○	災害対策、特に夜間の災害発生時については、何度となく家族会でも取り上げられている課題である。夜間を想定した訓練も繰り返し行う必要がある。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについては、常に事前に話をするようにしている。特に、拘束と抑制をすることでのリスクと、転倒や骨折によるリスクについては、入居の段階で、充分に説明をし、理解を得るようにしている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のﾊﾞｲﾀﾙ、食事量、排泄状態をﾁｪｯｸ表で管理し、他、個々の動作や様子からも異変やサインの早期発見に努めている。異変があれば速やかに管理者や勤務者で報告し合い、早期の対応に繋げている。記録や申し送りにて情報を職員全体で共有できるようにしている。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の用法、副作用等は分かりやすく、個々の利用者の個人記録に綴っている。変更等があれば、随時、医療用連絡ノートで連絡し、副作用を含めた症状の変化や様子を申し送るようにしている。確実な与薬と管理に努めている。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳酸菌飲料や食物繊維の多い食品の摂取を心掛け、体操や散歩などを促すようにして便秘の予防に努めている。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に一回、訪問歯科による口腔ケアと口腔内チェックを受けており、職員も個々の利用者の口腔ケアについて指導を受けている。一人ひとりの状態や力に応じて、促しや見守り、介助等の支援をしている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、1日を通してﾁｪｯｸ表で管理しており、個々の嗜好や状態に合わせて対応している。摂取量が確保しきれない利用者については申し送り、促しや介助を行ったり、好む物を随時摂ってもらう等の工夫をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルがあり、実行している。インフルエンザについては、職員・利用者とも全員毎年予防接種を受けており、外出後の手洗い・うがいの励行、外来者への手洗い・消毒も促している。		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具の衛生管理、食材の管理については、キッチン専任の担当職員がこまめに行っている。他、職員全体でも衛生面には気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
（1）居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉に施錠をしているもののｲﾝﾀｰﾎﾝのﾁｬｲﾑで、すぐに職員が出て行くようにしており、明るく出迎えるよう心掛けている。庭には花や植木、東屋がありくつろげる空間を設けている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングは、家庭的な雰囲気作りを心掛け、季節に合わせた装飾を考えている。共用空間は、利用者にとって落ち着ける空間であるよう不快な音や光、臭いの除去に配慮している。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、庭には東屋やベンチがあり、自由に過ごせるような居場所を確保している。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況に合わせ、本人が落ち着いて暮らせる居室の環境づくりを、本人の意向を基に、家族と一緒に考えている。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いや空気のよどみがないよう空気清浄機の使用、換気と消臭に気を配っている。温度調整はこまめに行い、冬場は加湿にも注意を払っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等、必要な場所には手摺りを設置しており、利用者の状況の変化に応じて手摺りを増設したりしている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや風呂の表示、居室には表札や目印をつける等、混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。 個々の状態の変化に応じて、随時、柔軟に対応している。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	物干し場になっているベランダでは、季節によっては皆でお茶を楽しむ事ができる。庭の東屋やベンチでは、日常的にお茶や外気浴を楽しんでいる。		

（様式1）

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
自己評価	外部評価	タイトル	
Ⅴ．サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目番号		項目	取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
自己評価	外部評価	タイトル	
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98		職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない